



ホームページ <https://www.osaka.shizenha.net/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/coop.shizenha.osaka>



【注文専用ダイヤル】
フリーダイヤル 0120-408-154
携帯電話(無料通話プランなし) 0570-050-154
携帯電話(無料通話プランあり)・IPフォン 088-666-3321
受付時間 ①10:00~21:00 ②~④8:00~21:00 ⑤8:00~10:10

イベントのお申込み方法

お電話にて①~⑥をお伝えください。

- ① イベントID
- ② 組合員名
- ③ 組合員コード(一般の方は一般)
- ④ 参加人数・参加者氏名
- ⑤ 連絡先
- ⑥ 託児の有/無(託児を設けているイベントのみ)、
お子様の氏名・年齢(月齢)・性別

※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。抽選後、落選者のみ【⑤連絡先】へご連絡いたします。

※イベント開始3時間前に気象警報が出ていた場合、中止となります。詳しくはHPをご覧ください。



【組合員サービスセンター】
フリーダイヤル 0120-408-300
携帯電話(無料通話プランなし) 0570-063-008
携帯電話(無料通話プランあり)・IPフォン 088-603-0080
受付時間 ①~④ 8:30~20:00



【申込受付フォーム】
必要事項を入力していただくと、自動返信にて申し込み内容が入力したメールアドレスに届きます。(携帯電話で送受信をされる方は、パソコンからのメールも受信されるよう設定をお願いします。)

パソコン用URL

<https://ws.formzu.net/fgen/S838906026/>

携帯用URL

<https://ws.formzu.net/sfgen/S838906026/>

申込受付フォーム
QRコード▶

イベント情報

ホームページからも
閲覧・お申込みできます。



イベントに参加できなくなった場合は、イベント開始までに必ず組合員サービスセンターへご連絡ください。
ご連絡いただけない場合は、イベント参加費・材料費・託児費を商品代金と一緒ににお支払いいただきます。

【報告】

主催:理事会

5/20 映画「決断 運命を変えた3.11母子避難」上映と
森松明希子さんを招いてのお話～福島原発事故からの避難～

14年前、3.11東日本大震災、東京電力福島第一原発の水蒸気爆発・・・想像を絶する状況におかれた10人の被災者と避難に至るまでの経緯、その後をインタビューしたドキュメンタリー映画「決断」～運命を変えた3.11母子避難～。避難を決めた時の気持ち、その後の生活についてご自身の言葉で切実に語られている。映画が進むにつれ「怒り」が込み上げて来る。何への怒りなのか・・・観ながら自問する。原発は危険と分かっているのに止められない政府への怒り。震災当初は「東京電力が起した過去最大の原発事故」「チェルノブイリより深刻」と言っていた。しかしいつしか政府は年間被ばく基準値を20ベクレルまで引上げ(震災前は1ベクレル)、被災者が避難する権利を奪った。国民が守られていない。映画にも登場される「ふつうの暮らし、避難の権利」関西訴訟、原告団代表の森松明希子さんから「裁判を傍聴してもらうことで世間は注目しているんだという民意になるんです」と切なる思いをお話し、傍聴が力になるのなら自分にも出来る事だと思った。決して他人事ではない、私達の住んでいる関西にも原発はあり、もしも自分がその立場だったら・・・と真剣に考えるきっかけになる1日だった。



＜参加者の声＞ ※一部抜粋

- ・時間を作って申込、足を運んで良かったです。有難うございました。
- ・原発事故後に情報が早く、正確に伝えられなかったことが先ず問題だと思いました。そんな状態の中で避難をせざるをえなかった方々は、この地震国に住む私たちの問題であると思います。
- ・福島地震に震源地で経験された方々のお話、思いを語られたドキュメントの映画を待っていました。これは多くの人々に見ていただきたい映画だと思います。この映画を私も微力ながら広めていきたいと思いました。色々考えさせられた映画とお話でした。福島地震から14年この問題も今だから言うべきこともあったと思います。あとでじっくりと考えてみたいと思います。



【報告】 ■ビジョンつなぐ

3/6 里親ってなんだろう？
～みんなに知ってほしい里親について～



今回は、実際に里親をされている組合員メンバーの松作さんにお話しをしていただきました。今まで知らなかった里親についての情報を詳しく教えていただきました。たくさん質問が出て、感想を言い合うシェアタイムも大変盛り上がり、みなさんの関心の高さが垣間見られました。

子育て中でありながら里親をしたい人、子育て経験がないけれど里親をすることに興味がある人、子育て中は難しいけれど手が離れてからやってみようという人、里親はできないけれどファミリーサポートなど気軽に関われるならやってみようという人、様々な考えの人がいらっしゃいました。

現状をより良くするために、「今の自分にも出来ること」を考えるきっかけに確実になりました。人は、いつか困った時、誰でも心のよりどころが必要で。施設を出た子どもたちが、安心して社会で生きられるような、騙されたり危険な状況におちいることのないよう、みんなで手を取り合っていきたいと感じました。



＜参加者の声＞ ※一部抜粋

- ・里親にいろんな種類があることも分かり、何か自分でもできることがあればと考えられる機会になりました。ディスカッションタイムもあり良かったです。まず、地域でも何かがあるか調べてみたいと思います。
- ・里親をいつかしたいなと子どもを持つ前から思っており、周りにはされている方などもおられず、よく分からないまま今に至りましたが、少し余裕が出て興味があると一歩ふみ出すと、このような機会に巡り合えて大変嬉しいです。知らなかったことを沢山知れました。自分の出来る事を考えていきたいです。
- ・里親について全く知らなかったのも、また更に詳しく知りたい事が多くありました。この様な活動にもとても興味があります。乳児院で働いてみたいと思いました。今から里親の講座など受けたいです。

【報告】

主催:理事会

4/26 PFASって何？！検査で何がわかるの？
～くらしの安全を守るには～

農薬の残留検査をはじめ放射能検査など、年間500件にもものぼる商品検査をお願いしている、農民連食品分析センター所長の八田さんによる学習会を開催しました。

1995年、日本のWTO協定加盟による農産物輸入増加で、検査の簡略化・国内税関での再検査禁止などに加え、基準の緩和など、輸入食品の安全性が不安視されていました。輸入食品や農産物について、科学的且つ中立な立場での検査施設の必要性から、農民連食品分析センターは農業者と消費者の募金により設立されました。



企業や行政などの影響を受けない、独立した立場で活動する世界的に見ても珍しい施設です。募金で生まれ支えられた施設が、これまで日本の食品衛生の分野でこういった役割を担ってきたのか、そして最近、その汚染が報道されるようになったPFAS（ピーファス）について伺いました。



PFASとは単体の物質名ではなく、一万種類以上ある有機フッ素化合物の総称です。人への毒性が指摘され、永遠の化学物質と呼ばれています。防水スプレー、フライパン、家具、化粧品、スマートフォン、生活においてありとあらゆる製品にそれらは潜んでいます。

浄水器の使用期間とPFAS減少率の関係や、下水汚泥肥料からの検出値についてなど、くらしのまわりの調査データを交えてお話しいただきました。検査しなかったらなかった事になる国ニッポン。科学的で中立な検査データの重要性は、今後ますます増していくのではないのでしょうか。有機フッ素化合物は、水俣病の原因物質である有機水銀ほどの強度の毒性があるわけではないということですが、避けるに越したことはありません。冷静に対応していきたいと感じました。まずは知ること、そして、選ぶことの大切さを改めて痛感しました。

＜参加者の声＞ ※一部抜粋

- ・歯のふっすとか、こむぎとか給食のごはんとか、へんなものがなくなればいいと思います(小学生)
- ・大変深く難しい問題ですが・・・軽やかにわかりやすくお話しいただきありがとうございました。どこかの国、誰かのことではなく、私たち一人ひとりのことだと実感ができました。このような命にかかわるたいせつなことは、学校教育現場の授業の一環として取り入れて欲しいと願います。他人事でなく、日々の日常生活から何をどのように選択するか、意識を持って行動したいです。
- ・会場は満席でPFASに関する意識が高いことが感じられました。分析センター八田さんのお話しは駆け足ながら、興味深いデータを基に、とてもわかりやすかったです。PFASが今後どの様に影響するかわかりませんが食は命です。目に見えないものだからこそ、地道な分析を続けていただきたいと思います。
- ・募金で生まれた施設が国民の命と健康を守る活動をしてこられたことを胸すかしながら知らなかったです。不安を感じたものは、検査して、健康被害があるかどうかを医学的にはっきりさせる両輪で進めて行って欲しいと思います。そのような情報を開示して、国民がそのようなものを使わない意識を持って暮らす社会になるようにと強く望みます。ユーモアを混ぜたあきないお話しで、ありがたく聞かせていただきました。

【報告】 ■おやこねっこそだて

2/28 親子関係がぐっと良くなるNVC入門

今回の講座は「NVC」が初めましての参加者さんが大半でしたが、ワークを取り入れて、実際にNVCを体験していただきました。慌ただしい毎日を過ごしていると、自分や子どもの言動の元になっている「気持ち」や、さらにその奥に隠れている「大切にしたいこと(ニーズ)」に丁寧に意識を向けてみる機会はありません。ワークでは参加者さんにも積極的に発言していただき、NVCという新しいものの見方を知っていただくいい機会になったと思います。これから自分も相手も心地よく過ごせるように日常の中に取り入れていただけるといいなと願っています。

＜参加者の声＞ ※一部抜粋

- ・子どもに接するなかで出てくる感情について、自分の気持ちに矢印を向けて深堀りすることで「大切にしたいこと(ニーズ)」がわかってくるよ、ということに深く納得しました。また、負の感情もOKという考え方が気持ちを軽くしてくれました。自分のニーズを考える時間を今日～明日中に設けようと思います！ありがとうございました！
- ・聞くと聴く、が違うということがキーだと思いました。普段、忙しさから効率を求めたり、忙しくない時もどうでも良いことに目を向けて、本当に大切なことに意識を向けていないことに気付きました。自分や相手の気持ち、初「ティ」な気持ちにも根っこにあるたいせつにしたいことを見にいっ癖をつけていきたいと思いました。もっと丁寧に過ごしていきたいと感じました。ありがとうございました。

【報告】 ■ビジョンたべる

4/30 知ってるようで知らない小麦の世界

吉原食糧株式会社の吉原良一さんに、日本における小麦の生産と消費についてお話を伺いました。同社は、四国の坂出市で4代に渡って製粉業を行っています。玄麦から小麦を製粉する工程は、55段階にもなり、用途に合わせて組み合わせられます。今、国産小麦は人気ですが、90年代頃の国産小麦は海外産に比べてタンパク質の量が少なく、伸びが悪く、ぶちぶちと切れやすく使いにくいものでした。四国の小麦は、米の裏作として農民が生きていくために生産されてきたのだそうです。

昭和38年、異常気象で降雨が続き、小麦の収穫が見込めませんでした。高度経済成長期、農業をするより都会に出て働く若者が増え、農産物の輸入が増加していった時代です。この不作を機にオーストラリア産小麦が入ってくるようになりました。オーストラリアは、独立した大陸なので、生物と同様に、小麦も独自の進化をしてきました。一般的に小麦は強力粉に近づくほど黄色味が強くなりますが、オーストラリア産小麦は白く、うどん用としては最適の粉だと日本人が気づいたそうです。現在、うどんの原料小麦には、オーストラリア産小麦(ASWオーストラリア・ダート・ホワイト)が主体で使われています。



1974年に導入された小麦奨励制度は、日本の小麦の定供給につながりましたが、品種改良は下火になり、国産小麦は敬遠されるようになりました。2000年に民間流通制度が始まり、小麦生産に市場原理が導入され、日本人の食感嗜好性の変化（固めの噛み応えよりももちもちとした弾力性が好まれる）に対応した国内産小麦育種「さぬきの夢2000（香川県）」や「きたほなみ（北海道）」が誕生しました。

小麦の栄養や、「グルテンフリー」についても詳しく伺いました。「グルテンフリー」とは、グルテンに対して自己免疫疾患を発症する「セリアック病」や「グルテン不耐性」の患者に向けた食品です。グルテンフリーを表示する基準が定められると、元々グルテンの入っていない食品までもがグルテンフリーとして宣伝され始め、グルテンは避けるべきものというような風潮が作られてきました。炭水化物には、糖質、食物繊維が含まれ、特に大麦は、グルテンも少なく食後血糖値の上昇を穏やかにします。日本の小麦は年間450万トンを入力に頼り、国内産の流通量は97万トンです。（令和6年度、自給率17%）遺伝子組み換えGMO小麦の輸入はなく、ポストハーベストについては、出港、着地の2回、又、230項目の検査も行っており、基準値を超えることはないとのこと。国民の必要とする量を自国内で賄えない現実を改めて感じました。また私たち、組合員が多面的方向からの知識を得ることの大切さも感じました。

＜参加者の声＞ ※一部抜粋
・本日はありがとうございました。国産小麦と言っても日本の小麦はもともと遺伝的にたんぱくが少なくて、、といったことから、品種改良の苦労や国産小麦が広がった背景など普段は聞けないお話を聞けてとても勉強になりました。
・良い機会でした。ありがとうございました。グルテンフリーなど、より深く知り、情報をそのまま受け入れず、考えてみる必要があると思いました。
・企画名通り、知ってるようで知らない小麦のことを聞けて良かったです。グルテン＝悪いものという傾向ですが、その部分についての誤解が解けて良かったです。
・とても貴重なお話ありがとうございました。グルテンフリーで小麦粉は避けていましたが、もう一度商品を選ぶ時、国産小麦粉も選択肢に入れてみようと思いました。

【報告】 ■自然派シネマ

2/27 自然派シネマ ちいさな上映会@からふる 「サティシュの学校 みんな、特別なアーティスト」 (2018年/日本/72分)

サティシュ・クマールは現代を代表するエコロジー思想家、非暴力平和運動家です。ガンディー思想の継承者サティシュは、「ヒューマン・スケール（人間の身の丈に合った）教育運動」を展開する中、イギリス南西部にシューマッハー・カレッジを設立しました。「ヒューマン・スケール教育運動」とは、本来の教育のあり方を取り戻そうとする運動のこと。「本来の教育とは、知識を詰め込むことではない。すでに備えられている“アーティストとしての自分”に気づくこと」「アーティストとは特別な人のことではない。誰もが特別なアーティストなのだ」と、サティシュは語ります。「畑を耕すのも、料理をつくるのも、『アート』なのです」幸せに生きるための3原則は「スロー・スモール・シンプル」平和のためにできること？「まず自分が平和を生きること」希望とやさしさに満ちあふれているサティシュの言葉や生き方は、わたしたちの世界を明るく照らし続けてくれます。

＜参加者の声＞ ※一部抜粋
・忘れかけていたものを思い出した感じ。特に、スロー・スモール・シンプルに共感できた。これからこれらを心がけながら生活ができればと思う。
・サティシュさんが話される内容全てが、心にさざりました。スローイズビューティフル 普段の生活で常に思い出したい言葉だなと思いました。自らの動作一つ一瞬瞬間、大切に感謝の気持ちでするように心がけたいです。ありがとうございました。
・前回、見てよかったと思い、今回も参加しました。スロー、スモール、シンプルとてもいい言葉です。これからの私の生きるモットーにしたいと思います。またdoingではなくbeingこれもいいですね。今回の企画ありがとうございました。
・辻信一さんは少しだけ知っていました。とてもゆったりとできました。アートという言葉にひかれ、来ました。人が生きることがアーティストだということがわかりました。スモール スロー シンプルとてもいいことだと気づきました。サティシュさんの言葉は心にずっと入ってきました。

【報告】 ■桜ブロック

2/23 米粉でデコレーション カップケーキを作ろう



コープ自然派のこだわり商品をフル活用して、米粉マフィンを作りました。ひたすら混ぜて焼くだけの簡単レシピでしたが、混ぜ方や焼くまでのスピード感で焼き上がりのふわっと感に違いが出ることにびっくりしました。



親子参加の方が多く、生クリームやイチゴ、ビスクレットなどでデコレーションしたかわいいマフィンがたくさんできて、「未就学児でも簡単に作れる！」「家でも作ってみます！」「喜んでいただけました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

＜参加者の声＞ ※一部抜粋
・米粉のお菓子作りに興味があったので参加できて楽しかったです。
・材料にこだわっていてとても勉強になりました。
・家でも作れそうなので作ってみます。
・楽しく過ごせました。
・年齢と託児、主催曜日が合っていて子供と一緒に作ることが出来て良かったです。
・お菓子作りは普段しないのですが、楽しくあつという間に作ることが出来ました。
・家で使っていない商品ばかりで知ることが出来て良かったです。
・子供も手軽にトライできて楽しかったです。早速家で作ってみたいと思います。次回も子供が参加できる企画を楽しみにしています。
・家で一緒につくるといつつい口を出してしまいます私ですが、この言う場だと見守ることができて良い時間でした。子供と一緒に参加できるクッキングがなかなかないので見つけて参加をすぐに決めました。家では白さき茶会のレシピ本で米粉ケーキをよく子供と一緒につくります。新しい米粉を知って買ってみようと思いました。

【報告】 ■食べものかしましくらぶ泉佐野

3/2 美味しいコーヒーの淹れ方講座 &おしゃべり会 お菓子付き



コーヒーマイスター本多佳子さんをお呼びし、コーヒーの美味しい淹れ方のコツを実践を通して教えていただきました。コーヒー抽出をペアで行い、終始和やかな雰囲気で開催者からも楽しかったの声が沢山ありました。



座学では本多さんの生産者への想い、わずかでも飲み続ける事で買える事の大切さ、環境に大きく左右される農産物であり収穫まで時間のかかるコーヒー豆を育てる大変さも教えていただきました。質問もたくさん飛び交い、コーヒー講座を通して参加者が楽しく交流出来たように思います。

＜参加者の声＞ ※一部抜粋
・初心者でしたが、楽しく学ばせてもらいました。講師の方が優しく質問もしやすかったです。おやつもおいしかったです！家でいれてみたいですよ。
・コーヒー初心者で右も左も分からなかったのですが、先生の深い知識に触れてどんどん興味がでてきました！途中参加でご迷惑をおかけしましたがとても濃い時間でした。コーヒーとおかしのマッチングの話もおもしろかったです。ありがとうございました。おかしもとってもおいしかったです！
・コーヒーのマニアックなお話楽しかったです。
・淹れ方のお話やコーヒー豆の産地のお話など、とても興味深く楽しくお話をさせて頂きました。普段はなかなかゆっくり自分や家族のためにコーヒーを淹れる余裕がなかったのですが、やっぱり淹れたい！！と強く思いました！器具についても教えてもらえてうれしかったです！ありがとうございました。

【報告】 ■わの里ブロック

3/7 いのちをはぐくむパン作り～ともに生きる ピースクラブ パンの試食も楽しめます♡



ピースクラブの大橋さんに、ピースクラブこだわりの国産小麦・天然酵母でのパン作りのお話を頂きました。天然酵母での難しさ、特に大きさには苦労をされた様です。後半は、働いているスタッフさんとメンバーさんが楽しくパンを作っていたり、コミュニケーションをとったり和気あいあいとされている動画を見せて頂きました。

美味しく安全なパンを作るだけでなく、障害者の方と共に生きる、お互いが真剣に付き合い、共に生きる大切さを教えて頂きました。試食ではコープ自然派で取り扱っている三種類のパンと、そして大橋さんがコープ自然派では取り扱っていないパンを持ってきて頂き、二種類のお茶と共に皆さんと一緒に頂きました



＜参加者の声＞ ※一部抜粋
・スコーンが大好きで時々注文するのですが、ピースクラブさんとは知らずでした。テーマがとっても聞きたい(福祉法人さんでの働き方)内容だったので、なんとか参加できて良かったです。コーヒーを飲みにぜひ行きたいと思います。
・国産小麦の貴重さや、天然酵母の扱いの大変さを知ることができて、ピースクラブさんのパンをもっと購入して食べたいと思いました。試食で食べた焼きたてのパン(特にスコーン)は、香りもよくて幸せの味がした。障害もった方々の働く場所を作って、共に生き生き生きるという考え方にとても感動しました。大橋さんのお話がおもしろくて、人としても豊かな気持ちになる素敵なストーリーを聞かせてもらえて勉強になりました。
・大橋さんの温かい熱い思いを聴かせていただいて、なるほど！！美味しいパンが出来る！！と納得しました。素敵な企画に参加させていただき有難うございました。